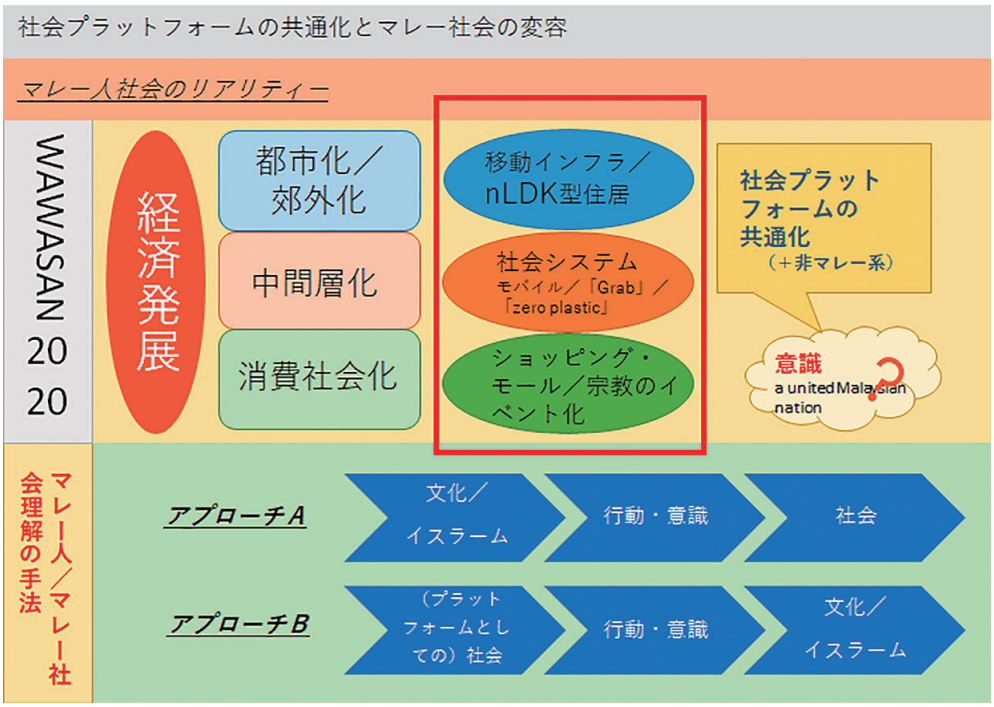
「社会プラットフォームの共通化とマレー社会の変容」

多和田裕司

大阪市立大学（現、大阪公立大学）の多和田です。よろしくお願いします。今回、Wawasan の 30 年間に社会がどのように変わったかというテーマをいただきました。それにたいして一言で答えるとすると、「社会プラットフォーム」が共通化したということになろうかと思います。それについて少しお話をさせていただきます。

私が 1987 年にマレーシアで最初に出かけた場所はクランタン州のかなり地方の村で、そこで長期滞在しながら人類学の調査をはじめました。そこから約 30 年が経って、現在、マレー人社会やマレーシア社会のどういうところにリアリティーが感じられるかというと、図表 1 の上段中央の赤で囲ったところです。たとえば、移動インフラです。これは道路や鉄道などの都市の輸送網であったり、エアアジアが全土を覆っていたりというリアリティーです。あるいは人々が暮らす住居はいわゆる nLDK 型の規格されたものになっています。インターネットやモバイル機器はほぼ 100％普及しているし、それらを利用した



図表 1　マレー人社会のリアリティー

Grab 型の様々な経済活動も行われています。昨年（2019 年）あたりからは zero plastic ということも強調されだして、環境への配慮が社会的にも大きな関心を集めるようになってきました。消費という面では、ここ 10 年、20 年、あるいはもう少し前からかもしれませんけれども、巨大なショッピングモールが拡大していますし、宗教までも、たとえばクリスマスやあるいはイスラムのハリラヤとかラマダンも様々に消費の対象になってきています。こういう状況が、私が見ているマレー人社会の現在のリアリティーです。

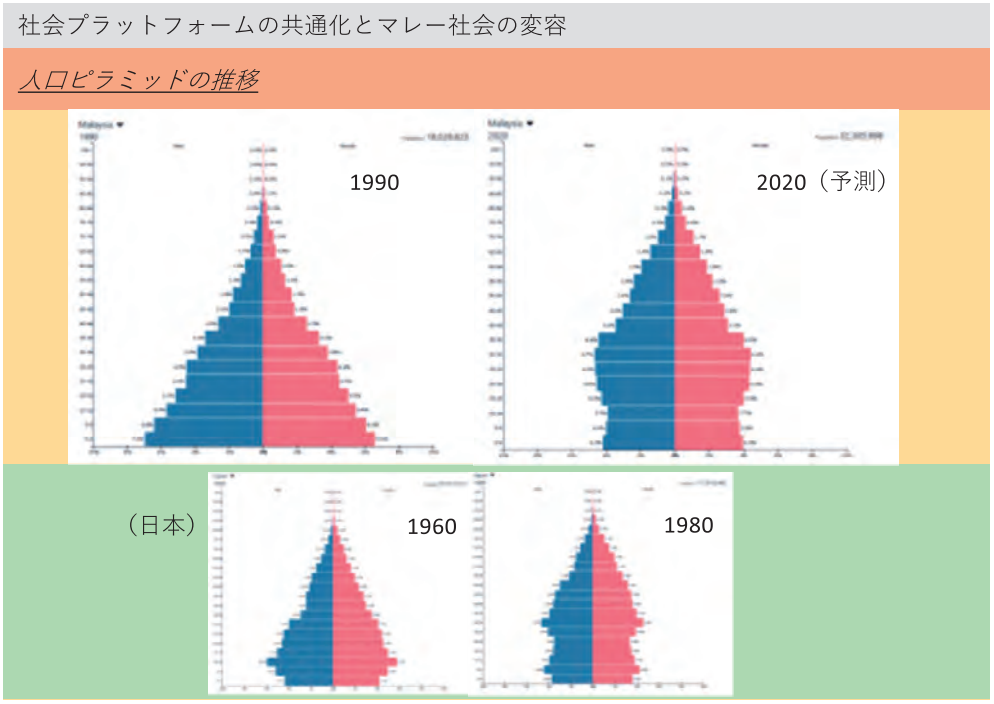
これを少し概念化して言うと、都市化であったり郊外化であったり中間層化であったり消費社会化であったりということになります。これはさまざまな研究者の方がすでにそれぞれの観点から論じていることであろうかと思います。これらの変化はどこからきているのかと言うと、もちろん経済発展ということになります。それは Wawasan にかぎらず、おそらくは NEP ぐらいからこういう変化が徐々に起こってきているのではないかと思います。これらのリアリティーは、当然、マレー人コミュニティーにかぎったことではないわけで、ここではとりあえず「社会プラットフォーム」という言葉を使ってみましたけれども、それが非マレー系も含めて共通化しているのではないか、そして、それをベースにして Wawasan の最初の目標として挙げられている、統一されたマレーシア人ネーションというものがはたして生まれるのかどうかということを考えています。

図表 1 の下段は私自身のアプローチということになるのですが、私の専門は文化人類学ですので、これまでは人間の行動を作っているのは文化である、マレーシアの場合だとマレー文化であったりイスラムであったりすると考えていました。それが行動だとか意識だとか、あるいは社会のあり方に現れてくるのであり、たとえば UMNO と PAS の対立というのは、イスラムに対する解釈の違いとしてとらえていました。しかし、いまは、「社会プラットフォーム」の共通化が逆に文化や宗教を変えていく可能性があるのではないか、その辺りを自分の課題として少し考えてみたいと思っています。

ここで申し上げた「社会プラットフォーム」の共通化という変化は、それぞれに質的にも、あるいは数量的にもきっちりと追いかけなければならないものなのですが、まだそこまで厳密な検討はできていません。本日はざっくりと一番ベーシックな変化と考えられるものをいくつか見ていこうと思います。

1 つは人口ピラミッドの変化で、1990 年から 2020 年にかけて、マレーシアの人口ピラミッドは図表 2 のように大きく変化しています。これと非常によく似た変化を示していたのが日本の 1960 年代から 1980 年代にかけての変化で、その形はほぼ重なっています。この 60 年代から 80 年代の日本がどのような状況であったかというと、もう皆さんよくご存じのように、高度成長があり、それから都市化があり、都市の周辺に様々な住宅地が開発され、そこに規格化された住宅が立ち並び、核家族が住み、といったようなライフスタイルにおける大きな変化でした。それにともなって文化の変化ということを我々は経験したわけです。そのように考えると、おそらく、現在のマレーシアもそういう途上にあるのではないかということが考えられるわけです。

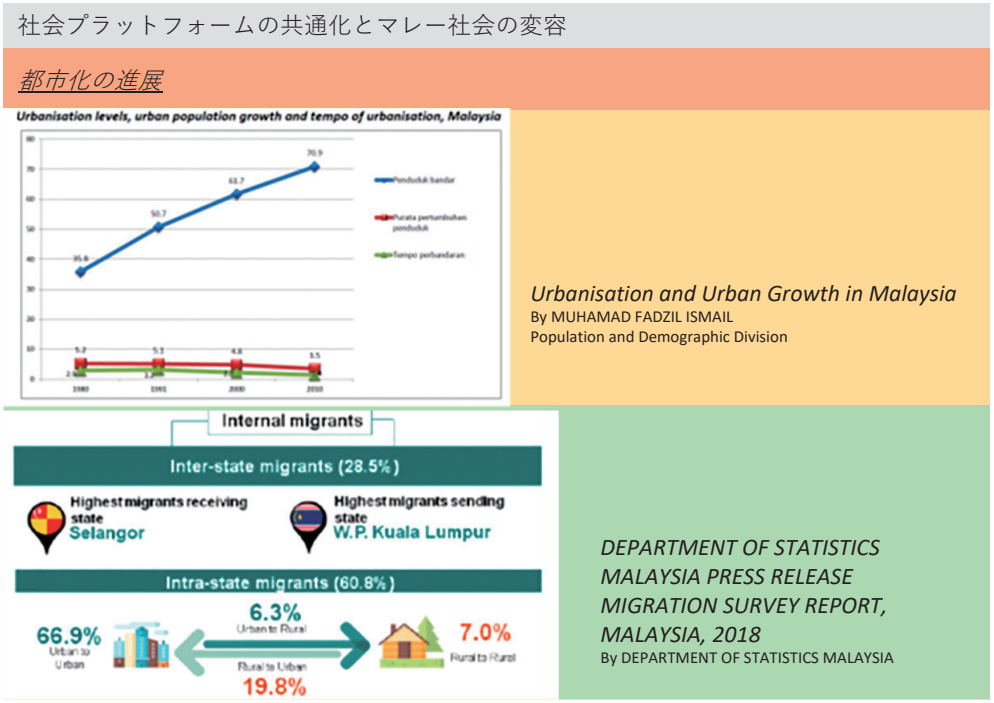
それからもう 1 つ、これは都市化の状況ですけれども、図表 3 を見てください。小さく



図表 2　人口ピラミッドの推移
PopulationPyramid.net をもとに作成（https://www.populationpyramid.net/）

て見えにくいですが、上段の青色のグラフは 1980 年から 2010 年までの都市化の状況で、1980 年には人口に占める都市の居住人口は 35.8％だったのですが、2010 年には 70.9％まで増えています。さらに 2020 年は 77％を越えるだろうという予測になっています。赤のグラフは人口の増加率です。人口の増加率に比べて都市居住者の増加割合というのがいかに速いかということが読み取れるかと思います。下段の数字はマレーシア国内の 2018 年時点での人の移動について、統計局がまとめて発表したものです。一番人を集めている州はスランゴールです。逆に一番人を送り出しているのがクアラルンプールです。クアラルンプールはそもそも人口密集地域ですから、これ以上人が入ってきようがない。その周辺のスランゴールに人が集まってきているということが見て取れるわけで、この辺りからも都市化、郊外化というのを指摘できるのではないかと思います。

次に、マレーシアの人たちの実際の生活の様子を切り取ってみていきます。左上の写真はこれは見てすぐにわかるようにクリスマスのデコレーションですけれども、クリスマスのデコレーションを楽しんでいるのはマレー系のイスラム教徒です。もちろん、中国系と思しき人たちも大勢います。今年（2020 年）はコロナ禍の影響で状況は把握できていませんけれども、毎年クリスマスの時期になるとこういう光景をクアラルンプールのあちらこちらで見ることができます。右上の写真は、これはカジュアルな中華飲茶レストランの店内ですが、そういうところでもマレー系の人たちが普通に中華飲茶を楽しんでいるとい



図表 3　都市化の進展

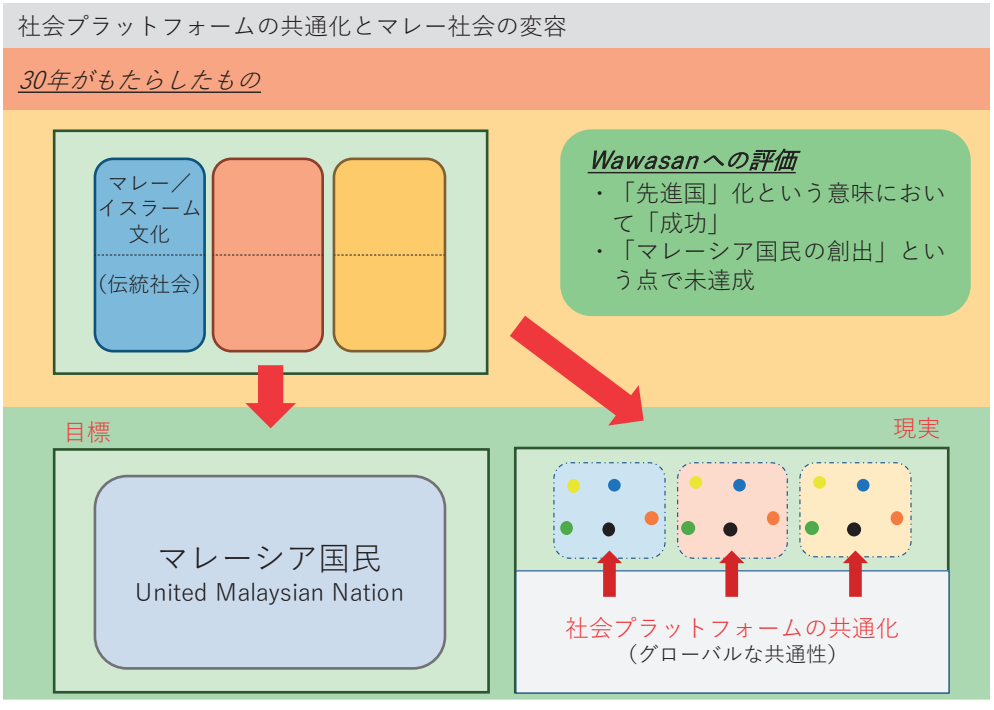
（出典）上段：https://www.scribd.com/document/461931546/Urbanisation-and-Urban-Growth-in-Malaysia　下段：https://www.dosm.gov.my/v1/index.php?r=column/pdfPrev&id=OWFsV1NpZ2EzbHVjdjVRS09KMi9IQT09

うような様子が見て取れます。それから下の写真はクアラルンプール郊外の写真ですが、皆さんもよくご覧になるような風景だと思いますけれども、こういう規格化された住宅地、それからたまたまこの写真には写っていませんけれども同じくマンションというようなものが立ち並んでいるという、こういうところに現在のマレーシア人、あるいはマレー人は暮らしているわけです。

それからこれは少し面白いと思ってメモしておいたのですが、去年（2019 年）の年末に出た *New Straits Times* 誌の記事なのですが、2020 年に流行るであろう消費トレンドとして、健康志向、植物由来の代替肉、持続可能性、電子商取引、キャッシュレスといったものがまとめられていました。これなどは、マレーシアというところを日本の来年の消費トレンドだと変えてもまさに重なってくる、違和感がまったくないような、そういうものです。もちろん、こういうのは時間差があって、社会や人々の全体にあまねく行き渡っているということではないかもしれませんが、方向性としてはこのような方向にマレー人社会、マレーシア社会は動いているのではないかということは間違いないでしょう。

最後に、私が考えるマレーシア社会の 30 年間の変化を図表 4 にまとめてみました。例えば 1980 年代の後半ぐらいから 90 年代の初め頃までのマレーの人々はマレー文化（より

写真　新たなライフスタイル



図表 4　30 年がもたらしたもの

厳密にはマレー化したイスラム文化）と、それを反映した社会、とりあえずマレーの伝統社会と名付けることができるような社会とが一体化した世界のなかで暮らしを営んでいました。そういったいわば箱のようなものが、華人系、あるいはインド系というような箱と並立しながらあったととらえることができると思います。これにたいして三つの箱を解体し、より大きなひとつの箱、つまりおなじ文化と社会を共有する者としてのマレーシア国民を作り出すというのがおそらく Wawasan の目標だったのではないかと思います。それが現実にどうなったかというと、これまでお話をしてきたように、「社会プラットフォーム」は共通化しました。しかもこのプラットフォームはたんにマレーシアだけではなくて、グローバルな共通性をも持っています。そのうえで「社会プラットフォーム」の力というのがそれぞれの文化にも非常に強く働きかけてきて、1980 年代ぐらいだと一枚岩的にとらえることができていたであろうそれぞれの民族集団が、共通化のプラットフォームの上でどう暮らしていくかという点にかんして多様化していったのではないかと私は見ています。Wawasan への評価というところでいうと、目標として先進国を目指すということであったわけですけれども、先進国の指標が何かというところで答えは変わってくると思うのですが、先進国的になるという意味では成功しているのではないかと思います。つまり、「社会プラットフォーム」は共通化する一方で人々の暮らしや価値観は非常に多様になっていくという、そういう意味での国の変化という意味では先進国的になってきているということがいえるのではないかと思います。他方でマレーシア国民が創出できたかという点については、これは多様性の方が非常に勢いが強くて、未達成ということになるのではないかと考えています。

（たわだ・ひろし　大阪公立大学）